

養豚企業の誘致

株式会社シムコによる養豚企業の進出は、地元住民や関係団体などから同意が得られたことから、「大館市公害防止条例」に基づき、大淵町内会、田代町土地改良区、田代漁業協同組合、株式会社シムコと市の5者で公害防止協定を締結しました。

同社では、1月上旬に用地取得を終え、2月には県に林地開発許可の申請をするなど、本格的に事業に着手しています。今後は、平成24年の操業開始を目指して用地造成や豚舎の建築工事を行っていきます。同社の誘致は、豚糞堆肥を利用した地域循環型の有機農業や、養豚飼料への飼料米の利用など、さまざまな分野に波及する可能性があり、引き続き畜産農業施設の誘致を推進し、雇用の場の確保と地域活性化に努めます。

耕作放棄地対策の取り組み

市農業公社が実施している「遊休農地等利活用調整業務」は、21年度に比内、田代地域の調査が終了し、22年度中には大館地域の2分の1の調査が終了します。

大館地域では、これまで水田211・7ha、率で11・1%、畑では7・3ha、率で8・6%の耕作放棄地を確認しました。また、22年度の耕作放棄地の解消状況は、比内、田代両地域、合わせて13・19haの所有権移転、利用権設定がされ、そのうちの1・28haが農地として再生され、来年度から作付けが行われる予定です。

なお、大館市耕作放棄地対策協議会では、昨年度の田代地域に続き、比内地域の所有者に意向調査を実施したところ、105人からあつせん希望があり、一方、受け手となる認定農業者、担い手農家に実施した経営規模拡大などの調査では、9人の農家から受け入れの希望がありました。今後、協議会では、貸し手、受け手の仲介をして耕作放棄地の解消を図っていきます。

地域活性化対策

過疎や少子高齢化などで活力の低下が懸念される市内各地域の活性化に向け、22年度は住民自らを取り組む活動を支援する「地域応援プラン」をスタートさせ、市内42団体の事業を採択しました。

また、大葛地区では「地域おこし協力隊」2人を迎え、地域活性化のためのアイデアなどを提案するなど、地域の新たな担い手として活動しています。

このほか、廃校となった山田小学校校舎を活用して操業開始した生ハム工場では、早ければこの春にも初出荷が見込まれ、菅谷地地区への養豚企業の誘致決定と合わせて、今後の地域活性化効果が期待されます。



生ハム作りを体験する「生ハム塾」

低炭素社会に向けた取り組み

「化石燃料から再生可能エネルギーへの転換」として、公共施設へのペレットストーブやペレットボイラーの導入を推進してきた結果、病院、教育施設を除いた平成21年度末の化石燃料の使用量は、17年度比で81%の削減が図られました。

22年度は、有浦保育園とハチ公荘にペレットボイラーを導入し、木質ペレットの普及に向けて「大館市木質バイオマス利活用推進協議会」を組織しました。

また、23年度には、公設総合地方卸売市場の照明をLED化する計画です。

これらの取り組みで削減される二酸化炭素の排出権を、国内クレジット制度などを活用した取り引きで売却し、その収益でさらなる二酸化炭素削減に向けた取り組みを強化したいと考えています。

今後も、市の豊富な森林資源やリサイクル産業などを有効に活用し、豊かな自然と共生し、調和した社会づくりを進めていきます。

小・中学校の耐震対策事業

優先度ランク1に該当した校舎のうち「大規模地震の際には倒壊の危険性が高い」といわれている構造耐震指標、I s値0・3未満の校舎の耐震補強工事は、22年度ですべて終了し、23年度からは「倒壊の危険性がある」といわれるI s値0・3以上0・7未満の校舎の耐震補強工事を実施していく予定です。

一方、優先度ランク3に該当している

成章中学校体育館の耐震第2次診断を実施したところ、I s値0・3未満と報告されたことから、生徒の安全を確保するため、同校体育館の使用を禁止するなどの措置を講ずるとともに、建築時期及び構造が同一の第一中学校第2体育館についても早急に耐震診断を実施します。

道路の整備状況

かねてから要望があつた長面地区の福館橋改修の代替案として、二中長面袋線の道路改築に向けて道路・橋梁詳細設計を行い、3月末にはその道路線形、橋梁架設位置などが決定します。

また、きめ細かな交付金事業で30路線、公共投資臨時交付金事業では7路線の道路改良や側溝改良、舗装補修を実施し、狭あい道路整備等促進事業では、幅員4m未満の狭あい道路の解消に向けて、6路線の道路改良を実施しています。

そのほかの報告

- ・ 大館鳳鳴高等学校野球部の甲子園初出場
- ・ 大雪への対応及び雪害の状況
- ・ 交通死亡事故への緊急対応
- ・ 農業農村整備事業の状況
- ・ 林業振興事業の状況
- ・ 冬まつり
- ・ 日本海沿岸東北自動車道の整備状況
- ・ 水道施設の整備状況
- ・ 公共下水道の整備状況
- ・ 平成23年度全国高等学校総合体育大会に向けて